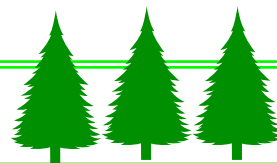




みつぎ便り



第197号 2月号 令和5年2月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

オオバン

先日、寒さで縮こまりながら見次公園の中を歩いていたら、氷雨の中の池にじっと動かずに浮いているオオバンを見かけました。群れで行動することが多いオオバンですが、池にたった一羽、ポツンと浮いていたのです。

その姿はまさに孤高の鳥のように感じられました。数年前から十一月頃になるとこの池に現われ、春になるとどこかへ旅だつて行く個体がいるのですが、今回もその同じ個体ではないかと思われまます。

オオバンは、ツル目クイナ科の一種。ほぼ全身が黒く、嘴から額にかけての白が目立つ、渋い柄の水鳥で



す。オオバンは、沖繩にいるヤンバルクイナと同じ仲間の鳥ですが、羽の柄はまるで異なります。

人間がまくエサを狙って現ることもありますが、一定の場所に常時いるというわけではありません。運が良ければ姿を見ることができてもくれません。散歩がてら、足を伸ばしてみたいかがでしょうか。

(静)

キンブナ (金鰯)

♪はるになれば すがこもとけて
どじょつこだの ふなっこだの

よるがあけたと おもうべな♪
と童謡で歌われるように、池の水ま
で水面から凍りついてしまします。

見次公園の池の中ではふなっこだの春
を待っています。

以前に公園の池で多くの釣り人の
人気である、ヘラブナ(ゲンゴロウ
ブナ)を紹介しましたが、今回はキ
ンブナ(金鰯)の登場です。フナの
種類はほかに、ギンブナ、ニゴロブ
ナ、ナガブナなどがあります。



コイ科、フナ属でコイとの大きな
違いは口ひげがあるのがコイで、フ
ナにはありません。キンブナは、主
に東北、関東地方に広く分布してい
て、河川の中、下流部、用水、池や
沼など少し汚れた水でも生息してい
ます。

体の色は黄褐色か赤褐色をして、
鱗に光が当たると金色に見えること
からこの名前が付いたといわれてい
ます。体長が十五センチまで、ほかの
フナに比べると、体高もあまり高く
なく大きくなりません。

関東ではよく見られますが、絶滅
危惧種なので大切にしましょう。

(圭)